

ドライブサロン事業について

日時 令和5年11月15日(水)10:30～
場所 リナシティかのや情報研修室

社会福祉法人 鹿屋市社会福祉協議会

鹿屋市の概要

【位 置】 鹿屋市は、本土最南端へと伸びる大隅半島のほぼ中央に位置し、大隅地域の交通・産業・経済・文化の拠点となっています。

【地 勢】 市域北部には、日本の自然百選にも選ばれている壮大な高隈山が連なり、系市域北東部は山林地帯となっています。

また、その南側には、国営第1号の畑地かんがい施設をもつ笠野原台地や肝属平野が広がり、市域中央部にかけて平坦地が続いています。市域西部は、錦江湾に面しており、美しい海岸線が見られ、さらに、市域南部は、神代三山陵の一つである吾平山上陵を有する山林地帯となっています。

【面積】 総面積 : 448.33Km²

【人 口】 総人口： 99,689人 世帯数： 51,162世帯

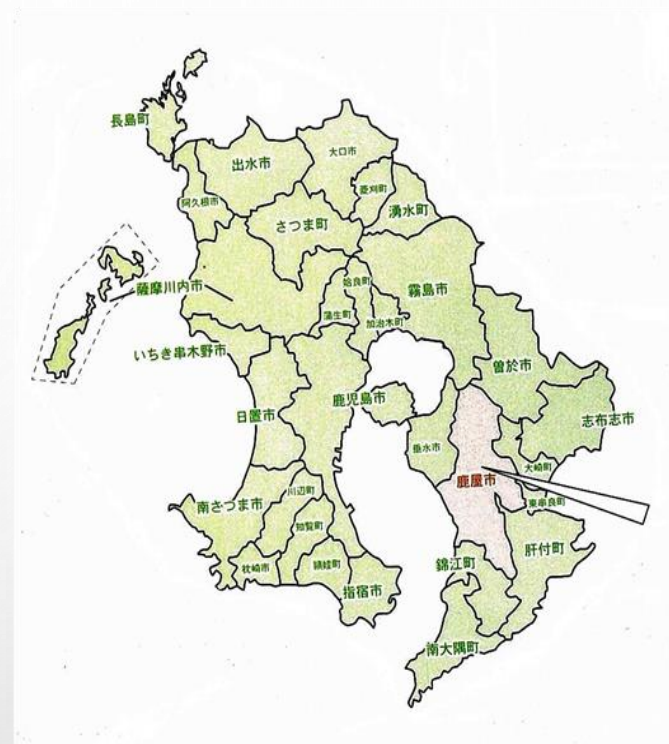
高齢化率： 30.64% ※住基台帳人口に基づく。

【主な福祉施設】

①特別養護老人ホーム 8か所 ②養護老人ホーム 1か所 ③児童養護施設 1か所

④乳児院 1か所 ⑤障害児福祉施設 1か所 ⑥障害者福祉施設 5か所 ⑦保育所 39か所

(令和5年9月末現在)



ドライブサロンとは

ドライブサロンとは、自ら交通手段を有しない高齢者等の交通弱者に対し、買い物等の交通手段を提供するとともに安否確認や健康状態の把握、閉じこもり予防や孤独感の解消、生きがいづくりなどを目的に平成27年から鹿屋市で実施している移送を中心とする複合的な生活支援事業です。

ドライブサロンには、現在、次の3つの形態があります。



- ① ドライブサロン(生活支援型)……………毎週1回市内の福祉施設の車両で高齢者等の買い物を実施
- ② ドライブサロン(生きがいづくり型)……地域の高齢者等を対象に福祉施設の車両で遠足を実施
- ③ ドライブサロン+(プラス)……………社協の車両を地域に貸出し、地域のボランティアで高齢者等の買い物支援を実施

《 新規事業 》

令和5年8月スタート！

ドライブサロン⁺プラスの実施について

鹿屋市社会福祉協議会

これまで、市内の社会福祉法人との協働事業として実施してまいりました買い物支援等事業「ドライブサロン(生活支援型・生きがいづくり型)」に、町内会区域で設立を進めている「地域福祉協議会」と連携した新たなバージョン「ドライブサロン⁺プラス」を追加し、高齢者等の買い物支援の更なる充実に努めてまいります。

《既存事業》

《新規事業》

生活支援型ドライブサロン

目的 高齢者等の交通弱者に対し、福祉施設のご協力をいただき週1回買い物等の交通手段を提供するとともに、安否確認や健康状態の把握、閉じこもり予防や孤独感の解消、生きがいづくりなどを支援する。

事業開始 平成27年4月1日

実施地域 13地区(有武,小簿,高牧,白水,一里山,重田,瀬戸野,柏木獅子目,富ヶ尾,花里,飯隈,南)

協力法人 5法人7施設(愛光会「桜町学園・サポートセンターラン・和光学園」,恵仁会「鹿屋長寿園」,永生会「慈恵園」,以和貴会「以和貴苑」,鹿屋恵友会「花岡の里」)

利用料 無料



生きがいづくり型ドライブサロン

目的 高齢者等を対象に、福祉施設のご協力をいただき、市内外の名所・観光地への遠足と買い物支援を行う。

事業開始 平成30年10月9日

実施地域 吾平・串良地域

協力法人 2法人2施設(岳風会「陵北荘」,友心会「ゆらり」)

利用料 無料

ドライブサロン⁺プラス

目的 買い物支援が必要な地域へ送迎用車両を当会から無償で貸し出すことにより、高齢者等の買い手弱者の交通手段を提供するとともに、買い物支援の実施主体を「地域福祉協議会」とすることで、協議会の活動の活性化及び新たな協議会設立のきっかけづくりとする。

事業内容

当会が、原則町内会ごとに設立を進めている「地域福祉協議会」へ買い物のための送迎用車両(7人乗りワゴン車)を週1回程度無償で貸し出す。ただし送迎の対象者や利用店舗、送迎のための運転ボランティアは、「地域福祉協議会」で調整・確保していただくものとする。

なお、車両リース料、保険料、燃料費等車両に関する経費は、全額当会で負担する。(共同募金配分金等活用)

実施予定地域 高須,川東,池園

利用料 無料

※ 参考 協議会設置状況(令和5年10月1日現在)

21か所(高牧,鶴羽,古前城,海道,花里,小簿,寿8丁目,吾平中央東,西原2丁目東,吾平中央麓,上野,細山田東西,中央町,大塚原,高須,川東,池園,西祓川,平南,高隈,富ヶ尾)

①ドライブサロン(生活支援型)

県内初！ドライブサロン事業！
—高齢者等の買物を福祉施設が支援—
平成27年4月9日



交通手段のない高齢者等の買い物支援や健康状態のチェック、安否確認、生きがいくりなどを目的とした複合的な生活支援サービス事業です。

《市内13地区で実施》



ドライブサロン(生活支援型)のこれまでの主な経過

年 月	内 容
H26. 4	鹿屋市へドライブサロン事業を企画し提案
H26. 8	社会福祉法人の地域貢献活動について桜町学園より社協へ相談
H26. 9	九州運輸局鹿児島運輸支局にドライブサロン事業について相談
H26. 11	桜町学園に対しドライブサロン事業を提案
H27. 1	北花岡地区においてパイロット事業開始(桜町学園)1/15～3/31
H27. 2	鹿屋市地域公共交通会議及び鹿屋市地域公共交通活性化協議会でドライブサロン事業を説明、意見聴取
H27. 4	北花岡地区においてドライブサロン本格始動(桜町学園)
H27. 10	高隈地区においてドライブサロン開始(鹿屋長寿園)
H28. 8	大始良地区(獅子目)においてドライブサロン開始(慈恵園)
H29. 3	串良地区においてドライブサロン開始(以和貴苑)
H29. 8	花里・根木原地区においてドライブサロン開始(花岡の里)
H29. 11	大始良地区(飯隈・南)においてドライブサロン開始(ラン)
R 4. 4	北花岡地区においてドライブサロン支援(和光学園)

ドライブサロン事業(生活支援型)の基本的条件

- 1 社会福祉法人から車輛と運転手をセットで派遣していただき送迎を行う。
- 2 車輛の運行管理に関する必要経費（車輛費・燃料代・保険料ほか）は社会福祉法人で負担し、料金は無料。
- 3 生活支援が目的の一つであるため、週1回同じ場所で同じ時間、同じ曜日に定期的に送迎する。
- 4 買い物先は、参加者で話し合い選定していただく。
所要時間2～3時間程度の範囲内での活動とする。
- 5 サロンの場所（集合）は参加者で決める。原則として各個人宅への送迎は行わない。
- 6 業務終了後、社会福祉法人は社協へ活動報告書を提出する。
無断欠席等があった場合、社協へ連絡し民生委員や緊急連絡先へ連絡する。

ドライブサロンに期待する効果

- 1 高齢者の閉じこもり予防や孤独感の解消
- 2 利用者の安否や健康状態の定期的な確認
- 3 利用者の生活実態の把握
- 4 利用者の生きがいづくり
- 5 地域と福祉施設の連携促進
- 6 社協と福祉施設の連携強化
- 7 福祉施設等の地域貢献促進 など

ドライブサロン開始までの主な手順

	時 系 列 手 順
1	対象地域のニーズ及び公共交通機関（バス路線・運行時刻等）の把握
2	選定地域の町内会や民生委員等へ事業説明，了解を得る
3	対象者の抽出（民生委員・自治会・地区コミュニティ協議会等）
4	ドライブサロンの住民説明会
	・参加者の決定、サロン立ち上げ、代表者の決定
	・集合時間、集合場所、買い物先の決定
5	経路確認，運行時間確認，買い物先との調整
6	保険加入（共同募金の財源を活用）
7	協力法人と運行管理契約書の締結
8	ドライブサロン事業開始
9	施設からの活動業務報告等

地域住民への説明会

対象地区で住民説明会を実施。
社会福祉法人も出席していただくことで
地域住民との顔つなぎにもなり安心して
いただくことができた。

活動の要望等もこの中であげていただき、
直接施設と調整することができた。
買い物先や日時， 集合場所等地域住民で
話し合って決めていただいた。



保険について

利用者



ふれあいサロン・社協行事用保険

①補償対象…参加者がケガや事故にあった場合の補償

②補償額等…死亡保険金 210万円
後遺障害保険金 210万円(限度額)
入院保険金日額 2,800円ほか
※乗車時以外の買い物等
(乗車時の交通事故は法人の自動車保険を適用)

法人の賠償
責任



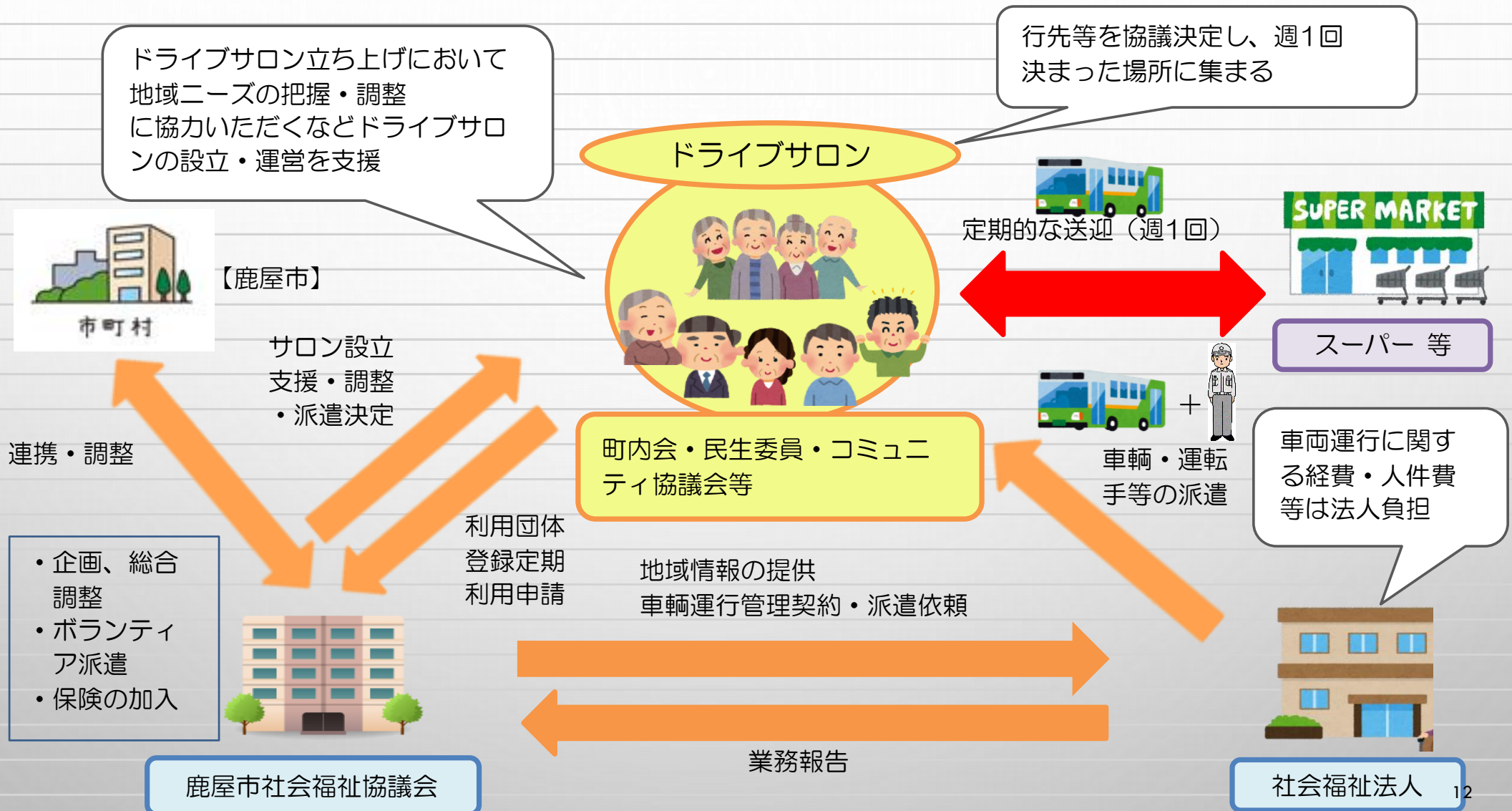
福祉サービス総合補償(社協も含めそれぞれの法人で加入)

事業のルールについて

事業のルール等を明記したものが必要であることから、協力法人と社協との間(高隈地区はコミュニティ協議会も含めた3者)で「**車輛運行管理契約**」を締結

【ドライブサロン（生活支援型）】

【事業のイメージ】



ドライブサロンの風景（生活支援型）



ドライブサロン事業の協力法人(5法人7施設)



【ドライブサロン(生活支援型)】

①社会福祉法人愛光会

障害者支援施設桜町学園

障害児福祉施設和光学園



総合サポートセンターラン



②社会福祉法人恵仁会

特別養護老人ホーム鹿屋長寿園



③社会福祉法人永生会

特別養護老人ホーム慈恵園



④社会福祉法人以和貴会

特別養護老人ホーム以和貴苑



⑤社会福祉法人恵友会

特別養護老人ホーム花岡の里



②ドライブサロン(生きがいづくり型)



高齢者等を対象に市内
外の名所・観光地への
遠足と買い物を組み合
わせた生きがいづくり
事業です。

《対象地域

串良・吾平》



生きがいきづくり型ドライブサロンの概要

- ☆ 対象地域 鹿屋市吾平町・串良町全域
- ☆ 対象者 おおむね65歳以上の高齢者(高齢者サロンの参加者等)
- ☆ 実施回数 毎月2回(1回3～4時間程度)
- ☆ 参加費等 無料
- ☆ 1回あたりの参加者数 40名程度(毎回1～3サロンが参加)

※行先等については、参加者の意向を踏まえ、社協で調整する。

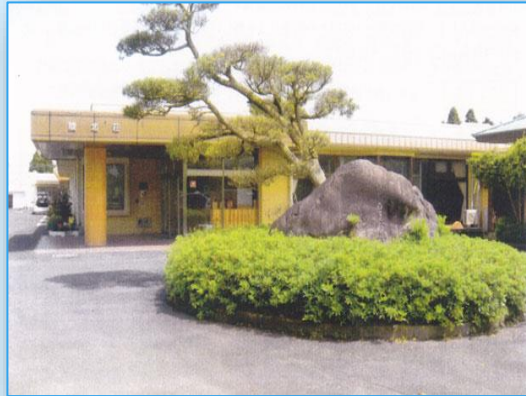
ドライブサロン事業の協法人(2法人2施設)



【ドライブサロン(生きがいきくり型)】

①社会福祉法人岳風会

障害者支援施設陵北荘



②社会福祉法人友心会

障害者支援施設ゆらり



【生活支援型】

【生きがいきくり型】

【合 計】

5法人7施設

2法人2施設

7法人9施設

令和5年9月末現在

年度別事業実績

【生活支援型ドライブサロン】

年度別	協力施設	実施地区	登録者数	延実施回数	延利用者数
H30年度	6 場所	12地区	108人	294回	2,456人
R1年度	6場所	10地区	93人	263回	2,166人
R2年度	6場所	10地区	90人	99回	774人
R3年度	7場所	11地区	76人	104回	799人
R4年度	7場所	13地区	91人	110回	708人

【生きがいつくり型ドライブサロン】

年度別	協力施設	実施地区	登録者数	延実施回数	延利用者数
H30年度	1場所	1地域	サロン参加者等	7 回	148人
R1年度	2場所	2地域	サロン参加者等	16回	249人
R2年度	2場所	2地区	サロン参加者等	1回	10人

生きがいつくり型は、新型コロナウイルス感染症によりR3, R4活動実績なし。

③ ドライブサロン+(プラス)事業

新規事業

当会が、準備した車両を町内会等の区域に設立された地域福祉協議会へ週1回程度、買い物支援用として無償で貸し出す。車両の運行については、当該地域福祉協議会で養成した地域の運転ボランティアが担い、支援が必要な住民を買い物施設まで送迎する。

1 事業コンセプト

- (1) 住民主体の生活支援(買い物支援)の実施
- (2) 地域(※地域福祉協議会)と社協との協働活動
- (3) 地域福祉協議会の設立促進と地域における福祉活動の活性化

2 事業内容

(1) 概 要

当会が、準備した車両を町内会等の区域に設立された地域福祉協議会へ週1回程度、買い物支援用として無償で貸し出す。車両の運行については、当該地域福祉協議会で養成した地域の運転ボランティアが担い、支援が必要な住民を買い物施設まで送迎する。

(2) 対 象

買い物施設まで距離があるにもかかわらず、そこまで行くための公共交通機関、市コミュニティバス(くるりんバス)等の交通手段のない交通空白地域で、生活支援型ドライブサロンが、実施されていない地域

(3) 車 両

当会で7人乗りのワゴン車をリースし、対象地域(地域福祉協議会)へ貸し出す。

(4) 利用日時

①月～金までの週5日(※祝日も利用可)

②9時～12時又は、13時～16時までの3時間とする。

(5) 住民の利用料 無料

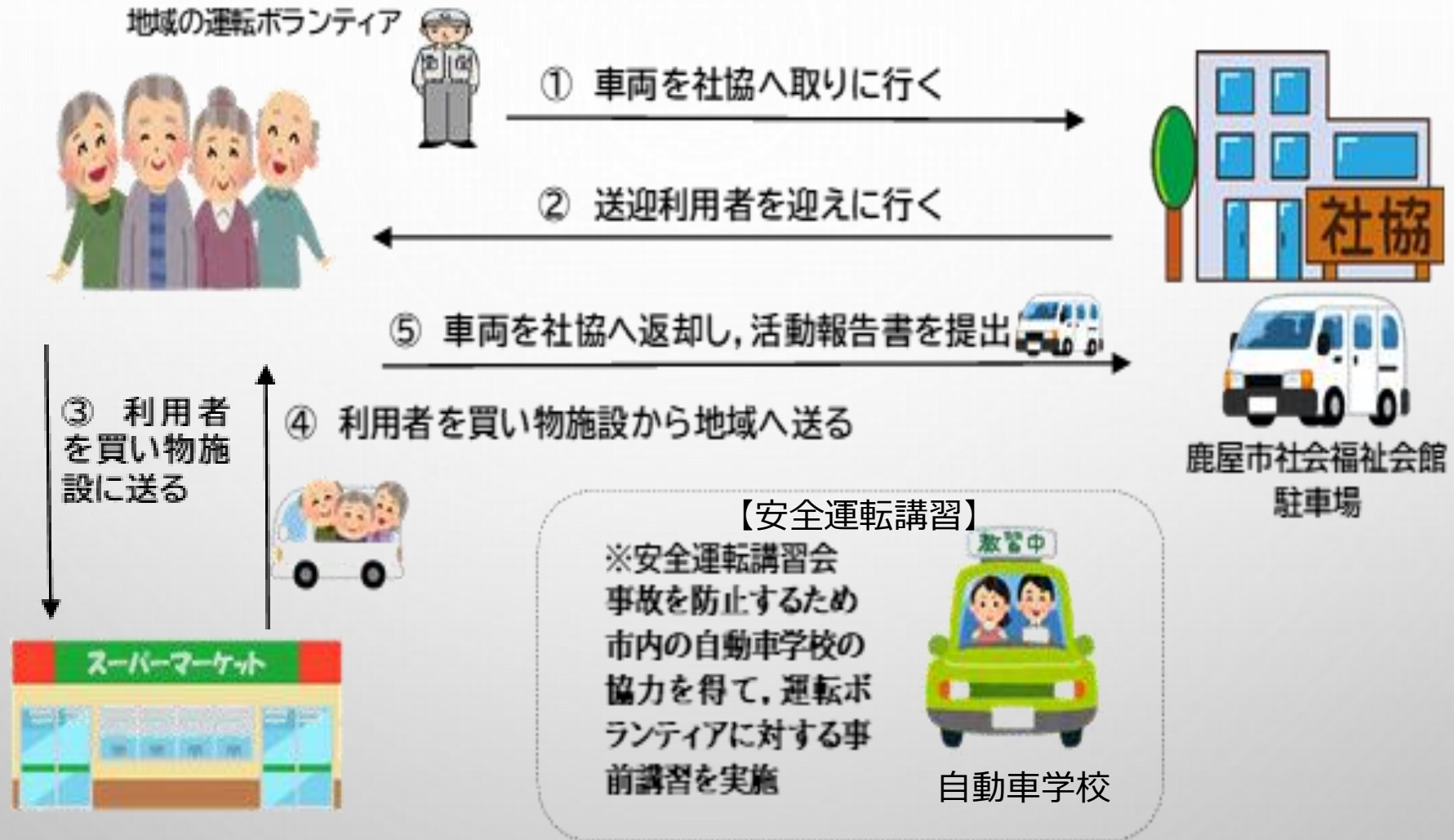
(6) 8月からの実施予定地域 高須町, 川東町, 池園町



※地域福祉協議会とは、町内会等の区域をベースに、住民が主体となって、地域の困りごとを把握し、情報を共有、問題を解決するための“話し合いの場”であり、鹿屋市社協が設立を推進している。

【ドライブサロン+(プラス)】

【事業イメージ】



【ドライブサロン+(プラス)】

開始式

《令和5年8月3日高須町民会館において、高須・川東・池園3地区合同の開始式を実施》



安全運転講習

《鹿屋自動車学校が社会貢献として無償で実施(2時間程度)》





支え合いで 買い物支援

車貸し出し ▶ ボランティアが送迎

鹿屋市社協と地域住民タッグ

自力での買い物に難しい高齢者が多く暮らす鹿屋市内の3地区で、地域住民と市社会福祉協議会が協働した支援事業「ドライブサロンプラス」が3日、始まった。市社協が無償でワゴン車を貸し出し、地域内で募った運転ボランティアが送迎する。関係者は「安心して生活できる一助となつてほしい」と期待を寄せる。

事業に取り組む3地区は高須町と川東町、池園町。いずれも買い物施設まで距離があるものの、公共交通機関などが無い。それぞれ「地域福祉協議会」を結成し、住民主体で困りごとの共有や解消を図る場をつくっている。

同事業では、各協議会が確保したボランティアに対し、自動車学校で安全運転講習会を実施。市社協が準備した車両1台を使い、原則週1回の3時間、支援希望の住民をスーパーマーケットに連れて行く。

「ドライブサロン+」事業開始式

象にして遠足と買い物を組み合わせる「生きがいづくり型ドライブサロン」にも取り組んできた。しかし、同事業の拡大は人手に限界があることから、住民主体の新しい事業を考え出した。

3日、高須町で地元住民や市社協関係者ら約50人が集まる事業開始式があった。第1便に乗り込んだ野村睦弘さん(88)は「たまたま運転するが、恐る恐るという気持ちがある。買い物支援を積極的に利用させてもらいたい」と喜んだ。

高須町内会地域福祉推進協議会の上原義史会長(62)は「町民700人余りの高齢化率は約6割となり、免許返納者も増えていくだろう。できるだけ早く支援体制を整えておきたい」と話した。

「ドライブサロン+(プラス)を取り上げていただいた新聞記事」

21

鹿児島県

13版

2023年(令和5年)10月26日(木)

鹿児島県

鹿児島県

鹿児島県

鹿児島県

鹿児島県

鹿児島県

鹿児島県

鹿児島県

鹿児島県

鹿児島県

鹿児島県

鹿児島県



「買い物弱者」支える住民パワー

交通手段がなくて買い物に行きたくても行けない。そんな地域住民の困り事に対応しようと、鹿屋市社会福祉協議会が新たな買い物支援事業を始めた。お年寄りを中心とした「買い物弱者」を支えようと、各地でいろいろな取り組みがみられる。(日崎第一)

スーパーまで無償送迎車

「ドライブサロン+」(プラス) 地域住民の買い物支援事業中

大隅半島の鎮江湾沿いにある鹿屋市高須町では、毎週水曜日。車体にこんなステッカーを貼ったワゴンボックスカーが地域を回る。お年寄りをスーパーに連れて行くためだ。

ある日は午前7時半ごろから4カ所を回って70、80代の5人を乗せ、5カ所離れた町中のスーパーへ。40分ほどで全員が買い物を終えると、午前11時にはそれぞれの家に送り届けた。

「このあたりは交通が不便なので助かります」と利用者の上地ミキ子さん(88)。野村睦弘さん(88)は車があるが、運転が不安で利用した。「便利だし、車の中でみんなと談笑するのが楽しいです」。車を運転していたのは、町内会会の上原義史さん(62)。上原さんによると、生鮮食品を扱う商店は地区になく、特に車を運転できないお年寄りが買い物に困っている。「利用者にも好評で回数も増やしたいくらい」と話す。

現在700人ほどいる住民の8割が高齢者で、5年後はさらに車の免許返納が増えると予測する。「今のうちにシステムをつくっておいて気軽に利用できるようにしておきたい」。

市社協は、社会福祉法人のバスを地域の買い物支援のために運行してもらった「ドライブサロン」という事業を鹿屋市内13地区で行ってきた。夏から始まった今回の「+」は、地域が主体になってやってもらうという特徴だ。

市社協が7人乗りワゴンボックスカーを無償で地域に貸し出し、ボランティアの運転手が週1回、貸された曜日に車を借り、地域住民を買い物施設まで送迎するという仕組み。運営は地域が担い、運転手は自動車学校で安全運転講習を受けることを義務づけている。

原則として公共交通機関やコミュニティバスがないエリアが対象で、現在、3カ所で実施している。

市社協事務局の清水直樹次長は「安全確保など高齢者の見守りにもつながる。地域の課題解決のため、住民パワーを使わない手はない」と語る。



スーパーで購入した食品を車に積み込む町上原さん(左)―鹿屋市

共同購入、公民館で受領

いちき串木野市では移動販売車「ぐりんぐりん号」が走っている。

2022年1月、市社協が買い物支援策としてスタートさせた。週1回、市内20カ所の公民館などを訪れる。

市社協生活支援コーディネーターの久本崎崎一さんによると、ぐりんぐりん号が来る日は公民館で健康づくりの「こころほん(転ばない)体操」を開いており、28年度には、のべ8816人が参加した。介護予防も兼ねた取り組みだ。

鹿屋市川内市入束町の町議地区では、生協とタイアップし、地区で共同購入した商品を公民館まで届けてもらっている。

数年前、近くの生協の店舗がなくなったのがきっかけ。毎週水曜日、お年寄り10人ほどが送迎車などで公民館にやって来て商品を受け取る。町議地区コ

ミュニティ協議会の成城義久会長(71)によると、食品が揃くまでの間、お茶を飲んだり、扇子振るをしたりしており、交際の場にもなっているという。

高齢者多数・近隣店1以下の地域、35%

食料品など日用品の買い物に困難な状況に置かれている「買い物弱者」の実態を県が調査した。県内を1万343カ所に分けて分類。そのうち高齢者が多く、近隣の店が1以下という地域は356カ所にのぼり、全体の35%を占めるとしている。

調査では、高齢者の割合や小売店の数のデータを使い、地域を500四方に区切って色分けした買い物アクセスマップを作った。それによると、県内1万343カ所のうち「65歳以上が47%以上で小売店1」の地域は



公民館に集った住民の住分け作業―鹿屋市川内市、町議地区コミュニティ協議会提供



公民館に集った移動販売車で買い物をする人たち―いちき串木野市社協提供

県が実態調査

556カ所。「65歳以上が47%以上で小売店1店舗以下」は3053カ所だった。二つを合わせた356カ所に住む人は14万3580人(9.3%)で、県は「将来、買い物弱者が増えるリスクが高い地域」としている。

地域の代表者に対する調査では、「店舗が減った」と答えた人が1割を超え、交通に困り「買い物に支障が出るほど不便が続いた」とする回答が4割近くを占めるなど、地域での買い物に支障が出ている実態が浮き上がった。

ドライブサロン事業の実施地域

【生活支援型】
町内会(自治会)等を対象地域として
いる。13地区で実施

【生きがいづくり型】
旧町を対象地域としている。串良・吾
平の旧2町

ドライブサロン形態

生活
支援型

生きがい
づくり型

＋
(プラス)

実施地域については、
公共交通機関が脆弱で、
近隣にスーパー等の店
舗がない地域を選定。

②高隈
長寿園(H27. 10～)

①北花岡
桜町学園(H27. 4～)
和光学園(R4. 4～)

⑤花里
花岡の里(H29. 8～)

③大始良
慈恵園(H28. 8～)

⑥南・飯隈
ラン(H29. 11～)

④富ヶ尾
以和貴苑
(H29. 3～)

⑩串良地域
ゆらり(H30. 10
～)

⑪高須・川
東・池園
(R5. 8～)

⑨吾平地域
陵北荘(H30. 10
～)

